

会員各位

2019 年度第 1 回研修会のご案内

2019 年 5 月 13 日

平素より大変お世話になっております。以下の要領にて 2019 年度第 1 回研修会を開催する運びとなりました。ふるってご参加ください。1セッションを 90 分とし、話題提供者による 30 分の発話の後、フロアを交えての意見交換となります。

参加ご希望の方は、お手数ですが事前に学会HP (<http://www.jarcds.org/meeting.html>) からお申し込みをいただきますようお願い申し上げます。

日時：2019 年 7 月 6 日（土） 10：30 受付 11：00 開始 17：00 終了（予定）

会場：明治学院大学白金キャンパス（東京都港区白金台 1-2-37）

1453、1454（教室が変更となる場合もあります）

参加費：500 円

1. プログラム

(1) 話題提供者：稲葉昭英（慶応義塾大学） 11：00～12：30

テーマ：「非初婚継続家族の子どもたち ―学校生活・家族生活に関する計量分析―」

概要：ひとり親世帯や、再婚世帯などの非初婚継続世帯出身の子どもたちの教育達成を中心とするライフコースの研究は、日米双方で多くの蓄積をみている。多くの研究は子どもの教育達成を起点に、これらの世帯出身者のさまざまな不利を明らかにしているが、解明されるべきは不利が生じてしまうプロセスであり、不利を生み出す社会のありかたであるといえる。

本報告では、これまでの主要な知見を紹介しながら、内閣府「親と子の生活意識に関する調査」（2011 年）を中心に、計量分析によってこれらの点を検討していきたい。

昼食休憩：12：30～13：30

(2) 話題提供者：菅原浩明（家事調停委員）13：30～15：00

テーマ：「育児中夫婦への親教育の試みの提案」

概要：面会交流支援団体と地方自治体との連携を考える上で何ができるのか検討した中、日本社会では、夫婦・親子関係に関する知識に関する教育がまったく欠けていることに気づいた。対処療法的な離婚に直面している夫婦に対する親教育プログラムはあっても予防的なものはない。育児中段階の夫婦に夫婦・親子に関する法的知識を知ってもらい、いざというときの養育費支払いや別居親との面会交流の重要性を啓発するプログラムについて考察する。

休憩：15：00～15：30

(3) 話題提供者：上原裕之（静岡大学地域法実務実践センター） 15：30～17：00

テーマ：専門家の仕事～「マニュアル忠実型タイプ」と「省察的臨床家タイプ」～

概要：家族間の紛争を担当すること。それは、他人の人生と向き合うことである。もともと、人生は一人ひとりのもの。他人が、その価値を決めることはできない。ところが、人は、自分のことになると、急に臆病になる。このため、人に決断してもらうことは本当に難しい。ましてや、家族間の紛争ともなると、決断すべき人が、複数、存在している。しかも、ようやくに決断した場合も、決断の方向が合わず、紛争の解決に結びつかないことが起きる。このため、家族間の紛争は、他の事件に比べて、解決困難である。それだけではない。家族間の紛争は、各人の価値観の違いを鮮明にしていく。このとき、この違いに気付いて、これを埋めようとしても、既に手遅れになっていることが多い。

紛争が長引いていくと、人は、環境的・精神的に大きなストレスを受けて、心身が不安定になる。このとき、脳は、「解決できないのは、あの人が解決を妨げているからだ」と言い訳をして、自らの安定を図ろうとする。そこで、人は、専門家（法専門家以外の者を含む）に相談し、判断ないし支援を求めていく。しかし、そうなると、解決すべき問題と当事者の人格が結びつきやすい。そして、実際に、これらが結びつくと、関係者の対立・抗争はいつそう激しくなり、環境的・精神的なストレスもより大きくなる。

それでは、判断ないし支援を求められた専門家（法専門家以外の者を含む）は、どのように対応したらよいのだろうか。これが、本日のテーマである。最近では、マニュアルに沿った対応をする人、裁判のやり方を真似て対応しようとする人などが少なくない。

しかし、これらの対応は、紛争を管理し、解決を規格化・標準化しようとする企てでしかない。世の中は、見えるものと見えないもので成り立っている。計測・計算ができるものだけが現実ではない。見えているのは、世の中のほんの一部、それも、重要な部分ではないことも多い。サン・テクジュペリ『星の王子さま』に出てくる狐も、王子に、「秘密を言うよ。簡単なことなんだ」、「肝心なことは目ではみえない」（池澤夏樹訳）と語っていた。

そもそも、かかる企ては、目の前にいる一人ひとりに対する「人間愛」、「親切心」に欠けているのではあるまいか。繰り返しになるが、人生は一人ひとりのもの。この大切なことを忘れて、一人ひとりの人生に関わっていくのは避けてほしいと思う。

2. 懇親会

昼休憩中に希望者を募って、懇親会を開きます。時間は17時半ごろになります。事前の申し込みは不要です。